

糟谷君死亡經過概要報告

一、前置き

糺、老は過る十一月十三日、午後六時二〇分三〇分

頃、桑町公園南側の水道高ビル前路上にて逮捕され、
の際負った傷害により翌日の午後九時頃北区浮田町
行向病院で死亡しました。

糺は、彼の死亡の原因が杖刃隊の暴行による傷害
であると確信しており、それに足りる証拠を把握して
います。しかし、警察側は「警棒を抜きタテとともに
防戦に使っただけで暴行を働いた事実はない」として、
つまり犯人は学生であるとの前提に立って、府警、警
備部と刑事部合同で「傷害致死事件」として捜査体制
を組んでいます。つまり威力は、67年10・8佐軒訪米
阻止、オースチ田斗争で殉死した、山崎博昭君の場合
と同様のデツク上げを止んでいるのです。我々は今度
こそ、60年安保斗争以来六人目の犠牲者である糟谷君
の死の真相を究明し、常に失敗してきた威力による階
級の犯罪の立証を今度こそ完遂しなければなりません。
従って今、この報告書には我々の手の内の全てを報
告することはできません。いずれ、より詳細な死因調
査報告を行なう予定ですが、現段階で公表できる資料
で、彼の死因についての中間的報告を行ないます。

二、

(1) 糟谷君が受傷したのは何時、何処でなかつたかとな
る。(これも疑えばきりがない。(1)逮捕時、その場所
(2)曾根崎署まで徒歩で連行する途中 (3)曾根崎署内で
留置写真撮るまで(4)15日サンケイ朝刊に掲載された
留置写真には、顔面に頭部より流れ下る血が写されて
おり、それは15日の解降時に立合った松本・横嶋両弁
護士及び佐藤医師により目撃された左側よりの頭頂部
の傷害によるものと思われ、少なくともその傷
害はそれまでにつけられたもの(5)留置写真以後、行
向病院へ向けて曾根崎署を出るまで。と、色々の可能
性を考えられ、しかも、死因を為した傷害と他の傷害
とがそれぞれ一度につけられたものとは限らない。

警察側は、死因傷害の時肉と場所を故意に右(1)に移
して、混乱状況を利用して逃げきろうとしている可能
性がないことはない。何故なら(1)乃至(5)であれば、警

関西救援連絡センター

警察による暴行、一応騒ぐ余地はないからである。そ
の臭今后追跡の課題として、今は一応警察のいつとお
り(1)としておく。

(1) 大阪府警々備部の逮捕時の状況説明

(1) 毎日新聞 十五日朝刊

13日、午後6時50分頃、公園南口からヘルメット
なしの学生凡約30人が杖刃隊に向って攻撃、10人が鉄
棒でなぐりなかり、残りが火炎ビンと石を投げた。糟
谷君がこのタルーの中中央先頭で左手にユマミ大の石
と右手に火炎ビンをもち、警官隊に投げつけた。糟谷
君はこのタルーの中中央先頭で何かにぶつかつてよろ
けて逃げ遅れ、荒木・赤松西巡査が両手をつかみ、杉
山巡査がねじ伏せた。この際、糟谷君の頭付近で火炎
ビンが爆発、髪が頭髪とゴボンにもえ移つたので三巡
査がたまたま消した。更に学生数人が三巡査に殴りな
り糟谷君を奪返そうとしたため、赤松巡査がタテで、
他の二巡査が警棒を抜いて応戦、糟谷君をねじ伏せた
ままでわたり合つたという。

鈴木貞敏警備部長は「傷は火炎ビンによるものな
奪還しようとしたとき鉄棒が当たつたのではない。警
棒ではないことは確信している」と述べた。

(2) 読売新聞 十五日朝刊

「……大阪府警々備部の発表によると……別のタ
ルーが糟谷君の奪還を計って鉄棒で襲いかつたので
隊員の一人がタテで防ぎ、他の二人が糟谷君を押し返
すようにして路上に倒れた。同警備部は、この乱斗の際
糟谷君が路上で頭部を強打したとみており、鈴木貞敏
警備部長は「逮捕した三人の隊員は警棒を抜いていた
が使用しなかつた」という」

(3) サンケイ 15日朝刊

「府警々備部では……その際、糟谷君の頭の傍で学
生らが投げた火炎ビンが炎上、糟谷君は頭部の一部と
作業衣のすそにサンリンをあび作業衣の一部が焼けた。
荒木巡査らは(1)逮捕時杖刃隊員は特別杖刃隊や中隊
や2小隊や3分隊荒木幸男、赤松昭雄、杉山時史――

「らしいものだ」と述べているのである。
(十五日毎日朝刊、朝日参照)

松本医師の見解は、死因、傷害の原因に
ついてはほぼ我々の見解に与している。

このことはともなく「平行に走った二つの
条痕」という点が大切である。鉄棒説の
根拠は、二回打ったという点からも崩壊す
る。路面衝突説は「条痕」ということは勿
論相容れぬ。この点からも崩壊する。のみ
ならず「二回」ということと機動隊の犯罪
を逆に立証することになる。つまり、一度
なら、過失、不可抗力ということもあり得
るが、二度では故意せう。

ちなみに、鉄棒説で二回ということの説
明は「内ケバ」であるが、大衆斗争の前
面、しかも、機動隊に捕獲されたようとして
いる人間に向けて行なうなど、夢想だにし
得ない。

(ロ) 以上のように、我々が報道機関と、解
剖立会いの結果だけを前提としても、極
めて論理的に警察発表を如何にまやかしで
その場しのぎの大嘘であるか説明できたか
考へる。

読者の一人一人がシマールロックホームズ
となつて、論理的に嘘を見つけて、我々に
知らせて頂きたい。

(ホ) 最後に、解剖立会いの時、彼の右腕部
に手の甲をばね上にしたときに、真上なら
見える部分に、十数カ所のマザがみられた
ところをつけ加えておく。逮捕した三警察官
は「逮捕時に警棒でなぐった痕跡はない」

と言っているが、その「マザ」「ミダ」は鉄棒
や、火炎びんや、路上衝突説では絶対に説
明がつかないものである。

恐らく、糟谷君は、上から打ち下ろされ
る機動隊員の警棒を必死になつて防戦した
にちみいない。それを、足や、ワテで蹴つ
たり、二おいたりしなから、左頭ケイ部に
一発、警棒の先のところを殴り、動きの少
なくなつたところを、二発たてつだけ、
打ちこんだのである。

三、以上で、今回の報告を置いておくが、い
ずれ、詳しい事件の全貌を伝える詳しい報
告書を出すつもりである。今回、割愛した
行凶病院の責任問題なども今後必ず白黒をつ
ける。

最後に、皆さんに我々の死因調査に協力
して下さるよう呼びかけます。どんなに小
さいことでも、現場について何かを目撃した
した人は、必ず、我々のところに申し出て
頂きたい。お願いします。

以上

一九六九年十一月十九日

市大救援会が

マス・取りしました。

関西救援連絡センター

(3/2) 8779